



東京未来ビジョン懇談会通信

2017.9.1 東京都

発行:政策企画局計画部

この懇談会は、都における政策の推進や政策形成等に新たな発想を取り入れるため、各界の第一線で活躍している新進気鋭の若手の方々と意見交換を行うことを目的に設置されました。

出席者：小池百合子(座長) 青木亮輔 伊勢谷友介 太田雄貴 落合陽一 くわばたりえ
 高校生内閣 宿輪理紗 高橋みなみ 田口亜希 田根剛 西田圭志 蛭川実花
 バックン 松澤香 メイミ 山科ティナ ※敬称略、五十音順

宿輪理紗氏のプレゼンテーション

※画像をクリックすると
動画が見られます

医工連携施設で研究している中で、より各分野・各機関で連携するためには、相手の価値観を理解する必要があると感じた。そのため、学生時代に自分とは異なる価値観を体験できる「中学での生活体験プログラム」を提案する。技術を人のためにもっと役立たせることで、50年後、100年後の皆の生活をより豊かで、楽しく、充実したものにしたい。



田根剛氏のプレゼンテーション

「成長から発想へ」と考え方を変えていこう。新しい発想が新しい未来をつくる、または発想がなければ未来がない、こういう状況が今ではないか。東京の区市町村を「島」に分解すると62個の環境となります。それぞれの地域に環境のアイデアを持ち、地域特有の環境をつくっていく「東京地域環境計画」を考えました。環境を理解し、傲慢ではなく謙虚に、地域のアイデアが東京の未来、新しいビジョンをつくれたらと思います。



落合陽一氏のプレゼンテーション

我々は今まで、皆が同じ光や音で教育された世界で生きてきた。それに対し、これからは違う光や音、もしくは個人の多様性に基づいた世界を、どうやって築いていけるかが最終的なキーワードになる。東京が近代を脱して新たな多重的国家と地方分権の見本となるため、テクノロジー、個人の時代を目指す上での教育の拡充、地方自治、日本的文化感覚の観点から提言します。



皆がそれぞれ自分たちが未来に対して責任を持つ、自由が持てることによって個人個人が成長して、新しい未来の最適化をつくることできる。(伊勢谷氏)

物の見方とか、脱却という話もあったが、もっともっと頭をやわらかく考えていきたい。(高橋氏)

出席者の
発言

こうなったら面白い、と皆が思うものを分かりやすくビジュアルで出してくれると説得力がある。やはり提案しないと何も始まらない。(蛭川氏)

音楽でも、どんなことを人と共有して体験していくか、色々なジャンルの研究がこれから進んでいくとよい。(菊地氏)

アウト
プット

第5回のビジョ懇では、「東京未来ビジョン懇談会」が描く未来像(イメージ)の考え方を整理をいたしました。今後、東京の未来像の一端をアウトプットしていきます(詳細は[当日配布資料](#)※をご覧ください)。※クリックで資料ページへ